

I 水産物の価格動向

1 総論 ～全般的に「前年並みから高め」～

- 全般的には、「前年並みから高め」の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響
新型コロナウイルス感染症が流行した初期においては、居酒屋などの飲食店が休業したことによる養殖魚などの高級鮮魚の下落はあったが、このところでは、コロナウイルスによる価格への影響は小さい
- その他
現在、原油価格の高騰、為替の円安などにより、水産物の価格が全般的に「前年並み」から「高め」の傾向となっている。

2 水産物の価格の見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	ぶり（養殖）	養殖魚の量が少なく、仕入れ値が高騰
2	はまち（養殖）	養殖魚の量が少なく、仕入れ値が高騰
3	まぐろ（脂身）	海水温の上昇などの海の環境の変化により良品も少なく、脂ののった部位の引き合いが集中して高値で推移
4	まぐろ（赤身）	不漁と原油高騰などが重なり廃業する船団が増え、水揚げ量も減少したため、赤身の引き合いが強くなり高値で推移
5	煮ダコ	水揚げが少なく、外国筋の需要高
6	甘えび	ロシア産が品薄の中、中国の買い付けが多く高値で推移
7	ブラックタイガー	米国、中国をはじめとする買い付けが多いこと、及び為替の円安による影響
8	酢ダコ	水揚げ量が少なく品薄により単価高騰
9	数の子	アメリカ・カナダの入荷が減少、北海道は増加
10	すじこ	良品が少ない上、大型の水揚げ量も少ない

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	あじ	水揚げ量がやや少なく推移
2	サバ	水揚げ量がやや少なく推移
3	まだい（養殖）	養殖魚の量が少なく、仕入れ値が高騰
4	ふぐ	発育が遅く、やせたフグが多い状態
5	いか	するめいかを中心に水揚げ量が少ない
6	タラバガニ	アラスカ禁漁のため、品薄、単価高騰
7	かき	生育が遅れており、入荷量が少ない
8	塩ざけ	漁獲量が増えたが、良品と大型が少なく割高

9	たらこ	円安の影響で単価上昇
10	めんたいこ	円安の影響で単価上昇
11	かまぼこ	円安によるすり身の高騰、包材・運送費の高騰などの影響
12	伊達巻き	円安によるすり身の高騰、包材・運送費の高騰などの影響

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	ぶり(天然)	10-11月北海道を中心に水揚げが多いものの その他各地は例年並み
2	まだい(天然)	全国各地で水揚げ量が例年並み
3	かれい	例年並みの水揚げで推移
4	いくら	漁獲量が増加、後半に入り仕入れ値も安価になる

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目(価格下落が概ね1割以下のもの)

1	まだら	例年よりやや水揚げ量が多い
---	-----	---------------

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目(価格下落が概ね1割を超える見通しのもの) 該当品目なし

II 野菜の価格動向

1 総論 ~全般的に「やや安めからやや高め」~

- 全般的には、「やや安めからやや高め」の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響
野菜の需要は、いまだにコロナ禍前の水準までは戻っていない状況にある。価格については、秋以降に天候が安定してから後は、単価安にて推移している。(トマト、ネギ類は継続的に安値推移)
- その他
野菜は、相場安が続いていて出荷調整が行われている品目もあるため、年末に向けては、年末需要のある商品については現状価格の安いものも一時的に上がる可能性もある。
ビニールハウスや温室などで栽培されたものは、原油高の高騰で重油、資材の高騰により一部品目で高めなものも散見する。(市場から量販店への価格転嫁ができない状況)
11月の生育期の天候が順調で入荷増のものは単価安の傾向であり、前年不作で単価高だった、ばれいしょや玉ねぎは安値で推移している。
輸入品については、ウクライナ情勢に起因する原油の高騰、円安の進行などにより、総じて輸入コストが高まり価格が高くなっている。

2 野菜の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	きゅうり	生産コストの上昇（肥料、資材、施設暖房費）により、埼玉県産地（人工的に生育し冬越しをさせたもの）からの出荷量は減少見込み。宮崎県など西南産地では概ね平年並みの予想だが経費の高騰に懸念が残る
2	ごぼう	7～8月にかけての産地での大雨と日照不足により、出荷量減少傾向のため太く大きめのものは少ない予想

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	はくさい	秋冬作の出揃いが遅れ、12月中旬に産地の出荷のピークを迎える予想
2	ピーマン	宮崎県産地では台風の影響で年内の回復の見込みはないが、他県産地からの出荷は順調予想
3	だいこん	適度な降雨により肥大傾向、11月下旬からの急激な気温低下による生育・収穫高の不良が見込まれる
4	えのき	多少の相場変動はあるものの、安定供給により相場はほぼ固定に近い推移の予想
5	生椎茸	菌床生産（おがくずと米や麦のぬかを混ぜた人工的な栄養にしいだけ菌を植えて作る栽培方法）の産地表示化により、国産の菌床生産ものがやや高めの相場にて推移している
6	三つ葉	生産者は減少傾向、年末の需要期には相場は上がる予想

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	キャベツ	11月の干ばつの影響は、降雨により解消し、12月は豊作傾向のため下旬まで入荷が多い予定
2	小松菜	入荷量は多く、順調に推移する予想
3	春菊	11月の干ばつの影響は、降雨により解消し、12月は豊作傾向のため下旬まで入荷が多い予定 年末に向け数量は減少し、単価は徐々に上げる予想
4	ねぎ	東北産地の出荷の終了は早かったものの、台風等の影響もなく、関東の秋冬作は順調でやや早めの出荷傾向になる予想
5	ブロッコリー	埼玉県産地は、10月にやや早めに出荷し、本来ピークの11月に産地からの出荷減、年末までにある程度の出荷が見込まれるため価格は安定する傾向
6	ほうれんそう	年末に向けて、産地での生育・出荷とも順調の予定
7	レタス	生育は順調、肥料、資材・施設暖房費等のコスト上昇分が、価格に影響してくる可能性がある
8	かぼちゃ	冬至需要あたりから入荷も増加する見込みで、若干干ばつの影響が出てくるかもしれない

9	なす	昨年より生産量は若干少ない見通しだが、需要も少なく単価は大きく左右されない見込み
10	くわい	生産者の高齢化で、作付けは微減。 台風の影響もなく生育は順調だが、需要は少ない
11	にんじん	台風の影響などもなく、各産地とも豊作傾向 年末にかけても産地からの出荷は順調の予想
12	やつがしら	生育・収穫高が良好も、生産者の減少による作付面積の減少
13	エリンギ	年末に向けて、やや需要は減少傾向。相場は安定しながら推移
14	舞茸	新規産地（埼玉）などの参入により、相場がやや下がり気味の状況

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	トマト	急な温度低下に生育が遅れ気味だが、年末（12月下旬）に向けて産地からの出荷量は増加してくる見込み
2	さつまいも	豊作で、産地からの出荷量は例年より多くなる見込み
3	ばれいしょ	7～8月の長雨の影響で、品質良好のものは少なくなる。残量の不足感から年明けにかけて価格はやや回復傾向になっていく予想
4	本しめじ	相場はほぼ固定に近い状況が続く予想

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

1	たまねぎ	7～8月の長雨の影響での品質良好のものは少なくなるものの、大玉中心の入荷予想
2	里いも	例年より作付けが増加する見込みで、生育順調、産地からの出荷量が増加する見込み
3	れんこん	豊作傾向で、昨年よりも産地出荷が増加する見込み

III 果物の価格動向

1 総論 ～全般的に「前年並みから高め」～

- 全般的には、「前年並みから高め」の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響
輸入商品については、海外での新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中で、現地での農園労働者、港湾労働者の不足により、価格が高騰している。
また、輸送コンテナ・チャーター船の不足や着地変更などによる延着など、不安定な入荷が続く見込みである。
- その他
みかんは、今年は実がたくさんならなかったものが中心になっている上に、九州から四国にかけての産地では9月の台風の影響を大きく受けており、出荷量は前年よりも少ない見込みである。
柿は需要減で単価安、りんごは輸出需要の高まりで供給減の予想である。
輸入品については、ウクライナ情勢に起因する原油の高騰、円安の進行などによ

り、総じて輸入コストが高まり価格が高くなっている。

2 果物の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	オレンジ	保護関税が昨年より下がったが、円安の影響が大きく、価格高となり各商社とも入荷を抑えているため量も少ない。 主産地のオーストラリアの多雨により品質も悪く産地からの出荷量も少ない
2	グレープフルーツ	例年はトルコ産地中心の入荷だが、円安、単価高による数量減の影響が大きい
3	レモン	円安の影響による数量減の単価高

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	バナナ	円安の影響を受けているのと、バナナの輸入全体の数量が前年比90%程度
---	-----	------------------------------------

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	いちご	今年は、台風が多かった（九州・静岡）こともあり、出荷始めの時期は例年よりやや遅れたが、年末に向けては安定した産地からの出荷が見込まれている
2	りんご	円安傾向のため、産地では引き合いの強い輸出に注力している状況。豊作傾向ではあるものの、年末年始の価格は比較的堅調に推移の予想

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	みかん	今年は実がたくさんならず、出荷量は昨年の80%~85%となる予想であるものの、秋口からは単価は前年を割り込んで推移している
---	-----	---

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

1	柿	種なし柿は今年度出荷遅れから当初は高値で推移したものの、徐々に需要が少なくなり、その後はうまくシフトできずに荷動きの悪さから脱却できない状況
---	---	--

IV ガソリン・灯油の価格動向

- 原油価格については、ここ数年、原油高で推移してきているものの、ここに来て、やや原油安傾向で推移している。今後については、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化と中国経済の失速という2大要因（上昇要因と下落要因）が拮抗しているため、原油価格に大きな変動はないと思われる。
- 今年度のガソリン価格は、昨年同時期と比べて大きな差はない。
- 年末年始のガソリン価格は、現在と変わらない予想。

- 今年の灯油価格は、昨年同時期と比べて高めとなっている。これは12月現在よりも原油価格が高騰していた秋口に輸入・精製した灯油の在庫が積み増しされているためである。
- 年末年始の灯油価格は、値上がり予想。原油価格に大きな変動はないと思われるが、灯油の需要期に入り、また、政府による節電呼びかけが続けられていることから、灯油の需要が増えると考えられており、上昇局面にある。ただ、気温の影響が大きいので、留意が必要である。
- 年末年始の在庫については、ガソリン・灯油とも十分に確保されている。
- 原油価格はここ数年高値で推移しているものの、政府が発表した経済再生のための総合経済対策では、燃料油価格の激変緩和事業が令和5年1月以降も継続されることとなったため、当面は製品価格に大きな変動はないと思われる。なお、1月以降は補助金を緩やかに調整（減少）するとの説明があり、ロシアによるウクライナ侵攻が終結しなければ、来夏には大幅な価格上昇が懸念される。

		今年の価格（対前年）	年末年始の見通し	在庫
1	ガソリン	変わらない	変わらない	十分にある
2	灯油	高め	値上がり予想	十分にある